

第2章 調査結果のあらまし

1. 県政全体に関する満足度

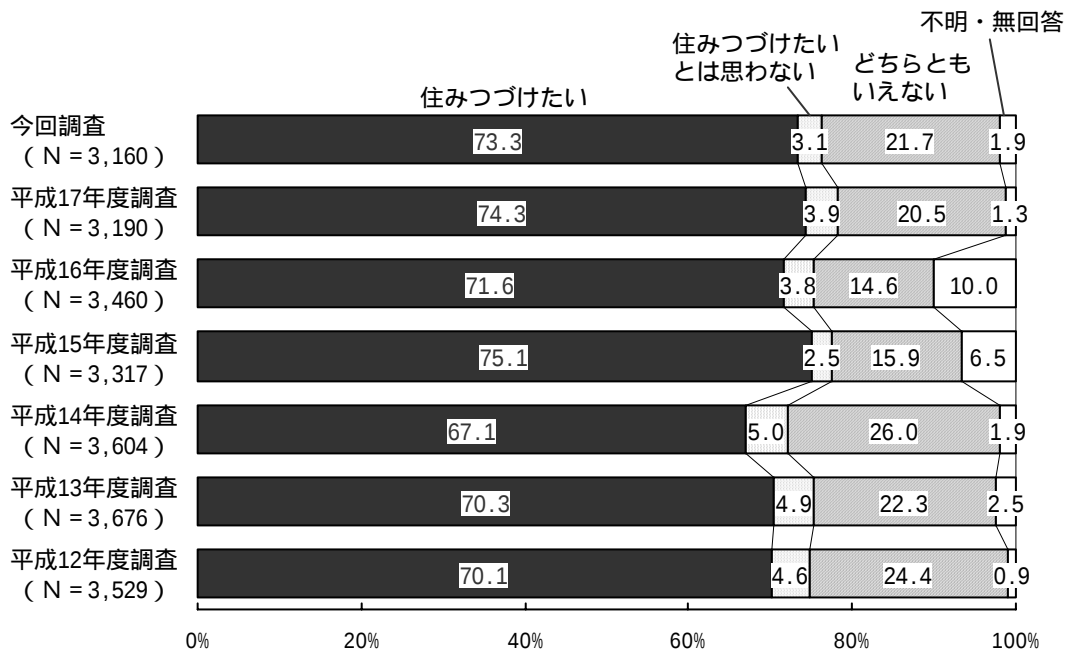
(1) 定住意向

問5 あなたはこれから滋賀県に住みつづけたいと思いますか。(○は1つだけ)

■「住みつづけたい」は全体の73.3%

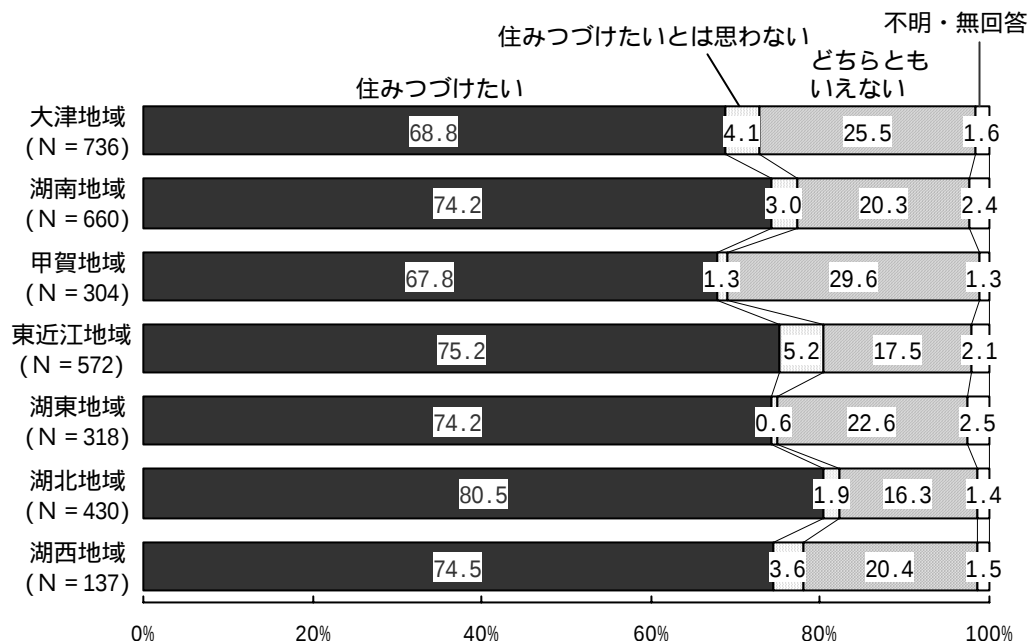
「住みつづけたい」が73.3%で最も多く、平成17年度調査に比べると1.0ポイント低くなっている。

「住みつづけたいとは思わない」は3.1%で、平成17年度調査に比べると0.8ポイント低くなっている。また、「どちらともいえない」は21.7%で、平成17年度調査に比べると1.2ポイント高くなっている。



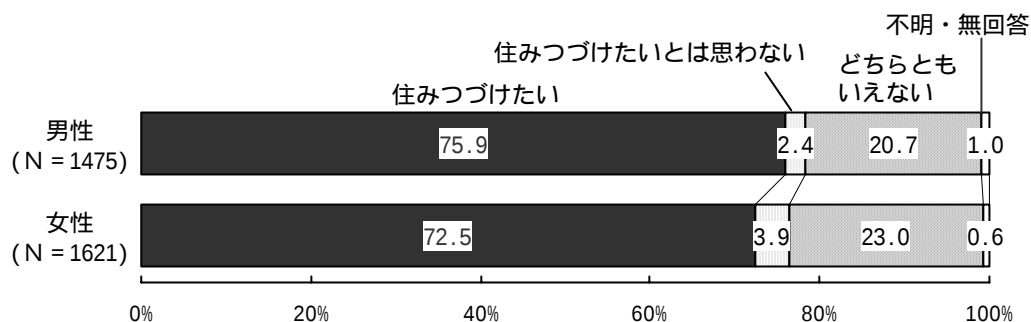
【地域別】

いずれの地域においても「住みつづけたい」が65.0%以上となっており、湖北地域は80.5%で最も高く、次いで東近江地域の75.2%となっている。



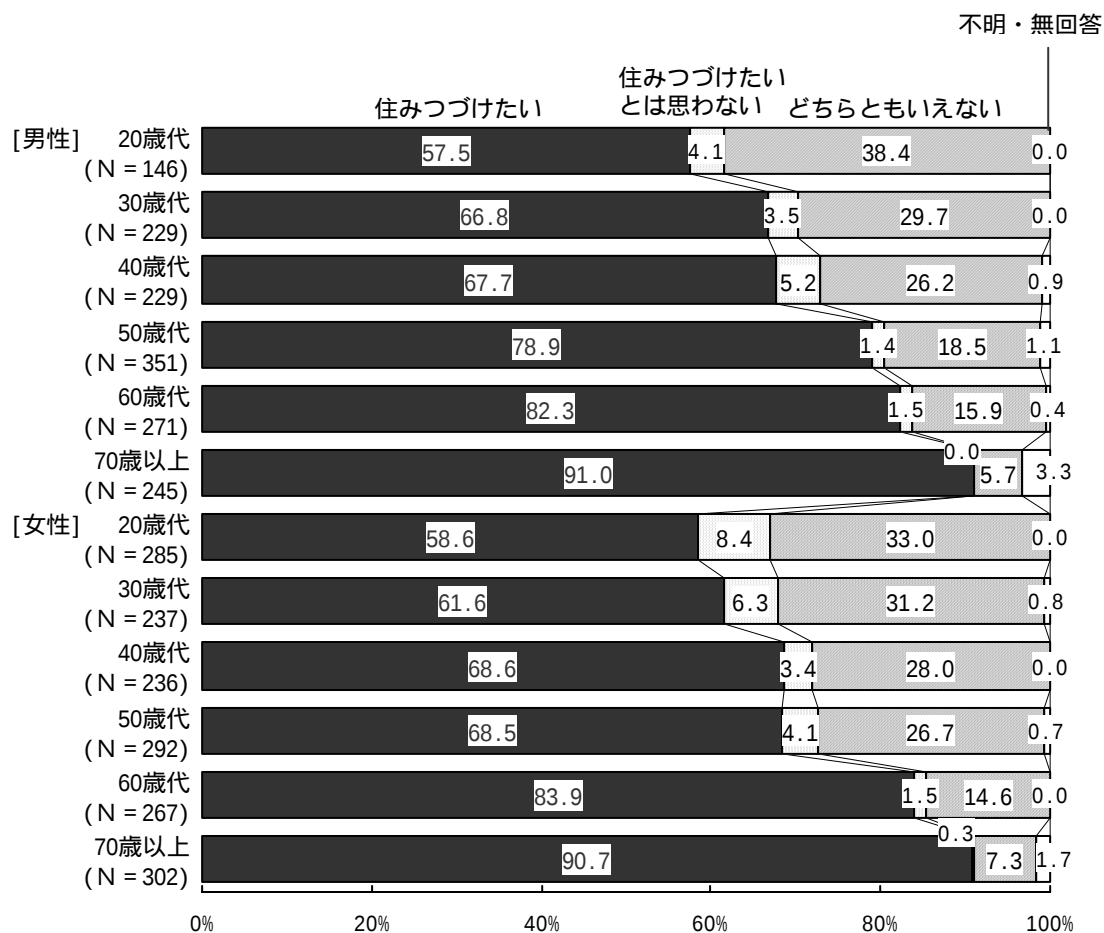
【性別】

男女とも「住みつづけたい」が最も多く、男性75.9%、女性72.5%となっている。



【性・年代別】

「住みつづけたい」は男女とも年代が高くなるほど割合が高くなっており、70歳以上では男性が91.0%、女性が90.7%となっている。



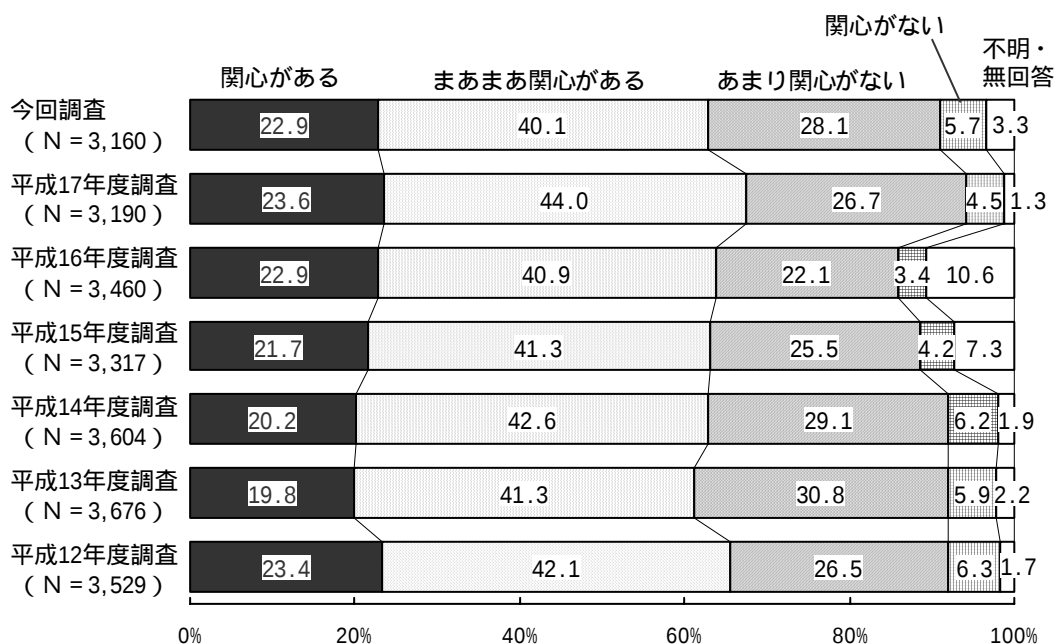
(2) 県政への関心度

問 6 あなたは、県政に関心をお持ちですか。(○ は 1 つだけ)

■ 県政への関心度は 63.0% が『関心がある』

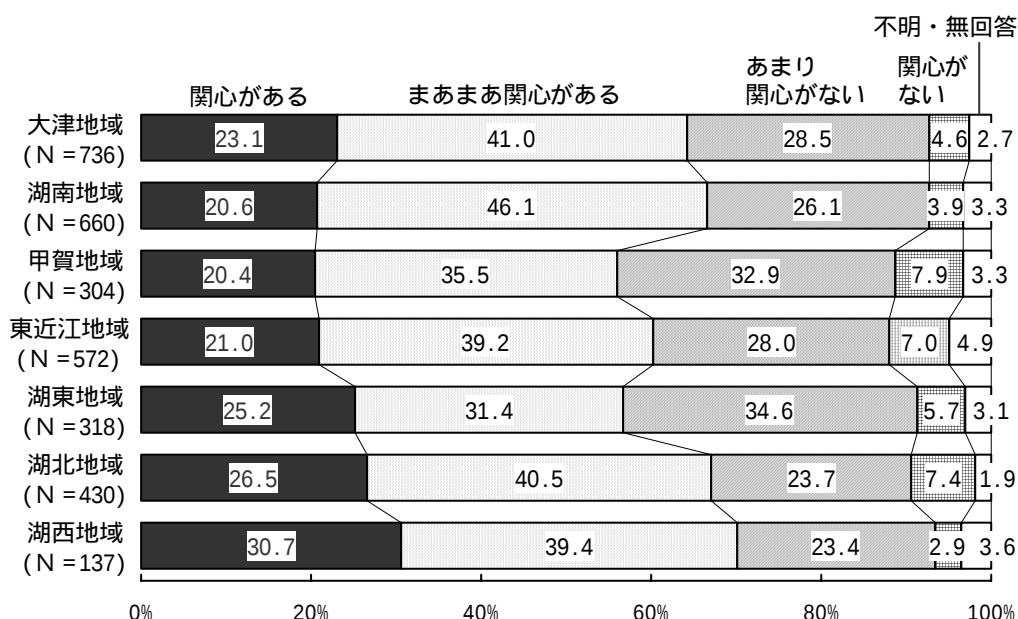
県政への関心度は、「関心がある」は22.9%、「まあまあ関心がある」は40.1%となっている。『関心がある』(「関心がある」と「まあまあ関心がある」の合計)は63.0%となり、『関心がない』(「あまり関心がない」と「関心がない」の合計)は33.8%となっている。

平成17年度調査と比較すると、『関心がある』は4.6ポイント低下し、『関心がない』は2.6ポイント高くなっている。



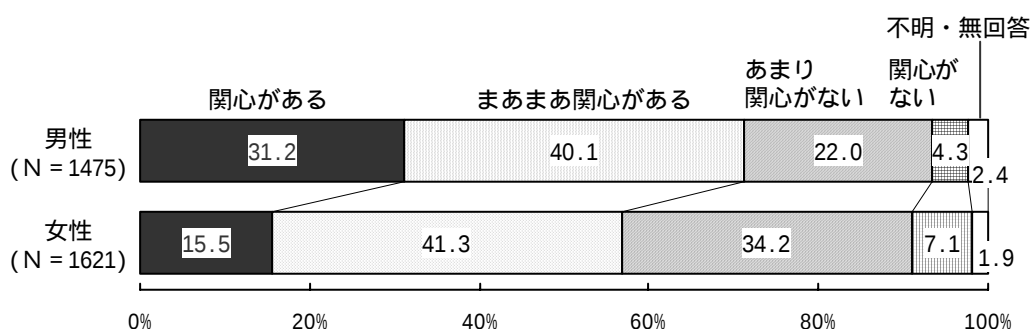
【地域別】

湖東地域以外では「まあまあ関心がある」が最も多く、湖東地域では「あまり関心がない」が最も多くなっている。『関心がある』については湖西地域で最も高い70.1%となっており、『関心がない』については甲賀地域が最も高い40.8%となっている。



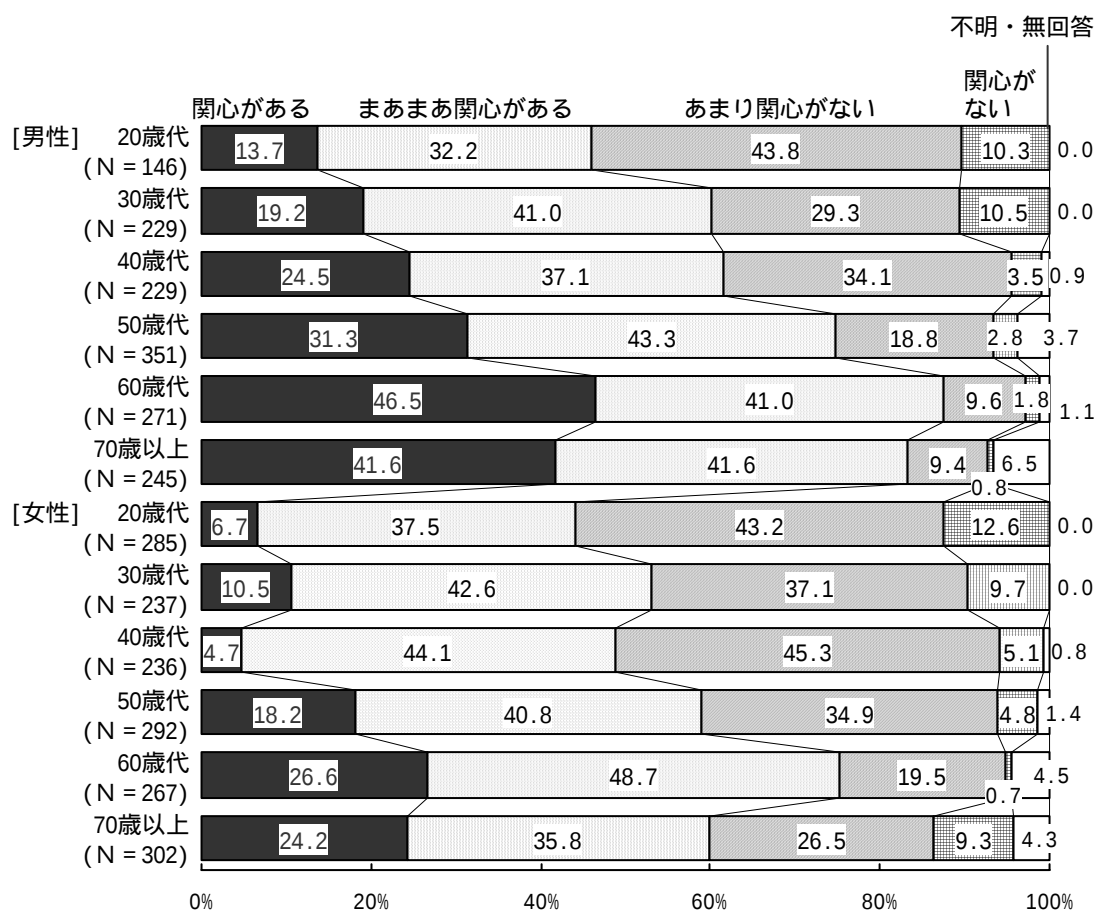
【性別】

『関心がある』は男性が71.3%、女性が56.8%と、男性は女性より14.5ポイント高くなっている。



【性・年代別】

男女とも、『関心がある』は60歳代で最も高く、男性87.5%、女性75.3%となっている。一方、『関心がない』は男女とも20歳代で最も高く男性54.1%、女性55.8%となっている。



(3) 県政に対する満足度

問 7 現在の県の施策に対してあなたはどの程度満足していますか。 1 ～ 51 のそれぞれの項目について、右の欄の 1 ～ 6 の中からあなたの満足度合いに最も近いものを 1 つ選んでください。(○ はそれぞれ 1 つずつ)

下表に示す 51 項目について、『満足度』を調査した。

- 1 . 「満足」
- 2 . 「どちらかといえば満足」
- 3 . 「どちらともいえない」
- 4 . 「どちらかといえば不満」
- 5 . 「不満」
- 6 . 「わからない」

を選択肢とし、本報告書では『満足度』(「満足」と「どちらかといえば満足」の合計)と『不満度』(「どちらかといえば不満」と「不満」の合計)に着目して、分析を行った。

項 目		図表中での省略表記
環 境	1 . 琵琶湖や河川などの水環境を守る取り組み	水環境
	2 . 健全な大気環境の保全や地球の温暖化を防止する取り組み	大気環境
	3 . 野生生物の保護など自然環境を保全する取り組み	自然環境
	4 . 田園風景や歴史環境など美しいふるさとの景観づくり	景観
	5 . 身近な地域におけるみどりづくり	みどり
	6 . 県民生活や事業活動による廃棄物の減量やリサイクル、環境に配慮した製品の購入など資源循環の取り組み	省資源・資源循環
	7 . 太陽光発電やバイオディーゼル燃料など、新エネルギーを導入する取り組み	新エネルギー
	8 . ごみのポイ捨て防止や県民生活、事業活動による廃棄物を適正に処理する取り組み	廃棄物
産 業 ・ 経 済	9 . 経済振興特区や工業団地整備、産学官の連携など産業活動を活性化する取り組み	産業基盤
	10 . 環境ビジネスやバイオテクノロジー、IT (情報通信技術) などの新しい産業づくり	新産業
	11 . 観光の振興や観光産業づくり	観光
	12 . ものづくりの人材育成や企業の技術力等の向上を支援する取り組み	競争力強化
	13 . 地場産業や商店街を活性化する取り組み	地域産業
	14 . 安定した雇用の確保や働きやすい環境づくり	雇用
	15 . 農薬や化学肥料を減らすなど環境にこだわった農業を推進する取り組み	環境こだわり農業
	16 . 農業の担い手の育成や県農畜産物のブランド化を推進するなど食料を安定的に供給する取り組み	農畜産業
	17 . 林業の担い手の育成や県産材の需要を拡大する取り組み	林業
	18 . ニゴロブナ、セタジミなど琵琶湖の在来魚介類を増やす取り組み	水産業
	19 . 道路や鉄道などの交通基盤を整備する取り組み	交通基盤
	20 . インターネットやケーブルテレビなどの情報通信基盤を整備する取り組み	情報通信
	21 . 産学官連携や技術者等の育成による科学技術を振興する取り組み	科学技術

項 目		図表中での省略表記
暮らし	22．家庭、地域、学校、職場が一体となった健康づくりの取り組み	健康づくり
	23．病院などの医療サービスを提供する取り組み	医療
	24．生活保護や国民健康保険の取り組み	生活安定
	25．高齢者の介護や生きがいを支援する取り組み	高齢者
	26．障害者の自立を支援する取り組み	障害者
	27．子どもの保育や子育て支援、児童虐待の防止などの取り組み	子ども
	28．地域で互いに支え合い、誰もが住みたくなる福祉のまちづくり	地域福祉
	29．住宅、公園、下水道などの快適な居住環境づくり	居住環境
	30．食品、水道水の安全確保や消費者を守る取り組み	消費者
	31．洪水や土砂災害、地震などの災害に備える取り組み	災害
	32．犯罪に遭いにくい安全なまちづくり	防犯
	33．交通事故を防ぐ取り組み	交通安全
	34．環境と調和する計画的な土地利用の取り組み	土地利用
	35．都市や農山村の快適な生活環境を整備する取り組み	都市・農山村基盤
教育	36．基礎基本の徹底や個性を伸ばす学校教育の取り組み	学校教育
	37．家庭や地域での教育力を高める取り組み	地域の教育力
	38．青少年の社会参加や非行を防止する取り組み	青少年育成
	39．学校や公民館、図書館等を活用した生涯学習の取り組み	生涯学習
	40．県立大学をはじめとする魅力ある大学づくり	高等教育
自治・文化	41．人権侵害や差別のない人権が尊重される社会づくり	人権尊重
	42．男女の人権が尊重され、ともに多様な生き方ができる社会づくり	男女共同参画
	43．地域の特色を生かした魅力的なまちづくり	まちづくり
	44．ボランティアやNPOなどによる社会貢献活動への支援	市民活動
	45．外国人との交流や国際理解など国際性豊かな人と地域づくり	国際化
	46．貴重な歴史や文化資産の保存とまちづくりなどへの活用	歴史文化資産
	47．文化芸術の体験機会の充実や活動支援	文化・芸術
	48．生涯にわたりスポーツに親しむことのできる環境づくり	スポーツ
	49．県政に関する情報の発信や公開などの取り組み	県政情報
	50．市町合併の取り組みに対する支援	市町合併
	51．行政経営の改善や健全な財政基盤をつくる取り組み	県政運営

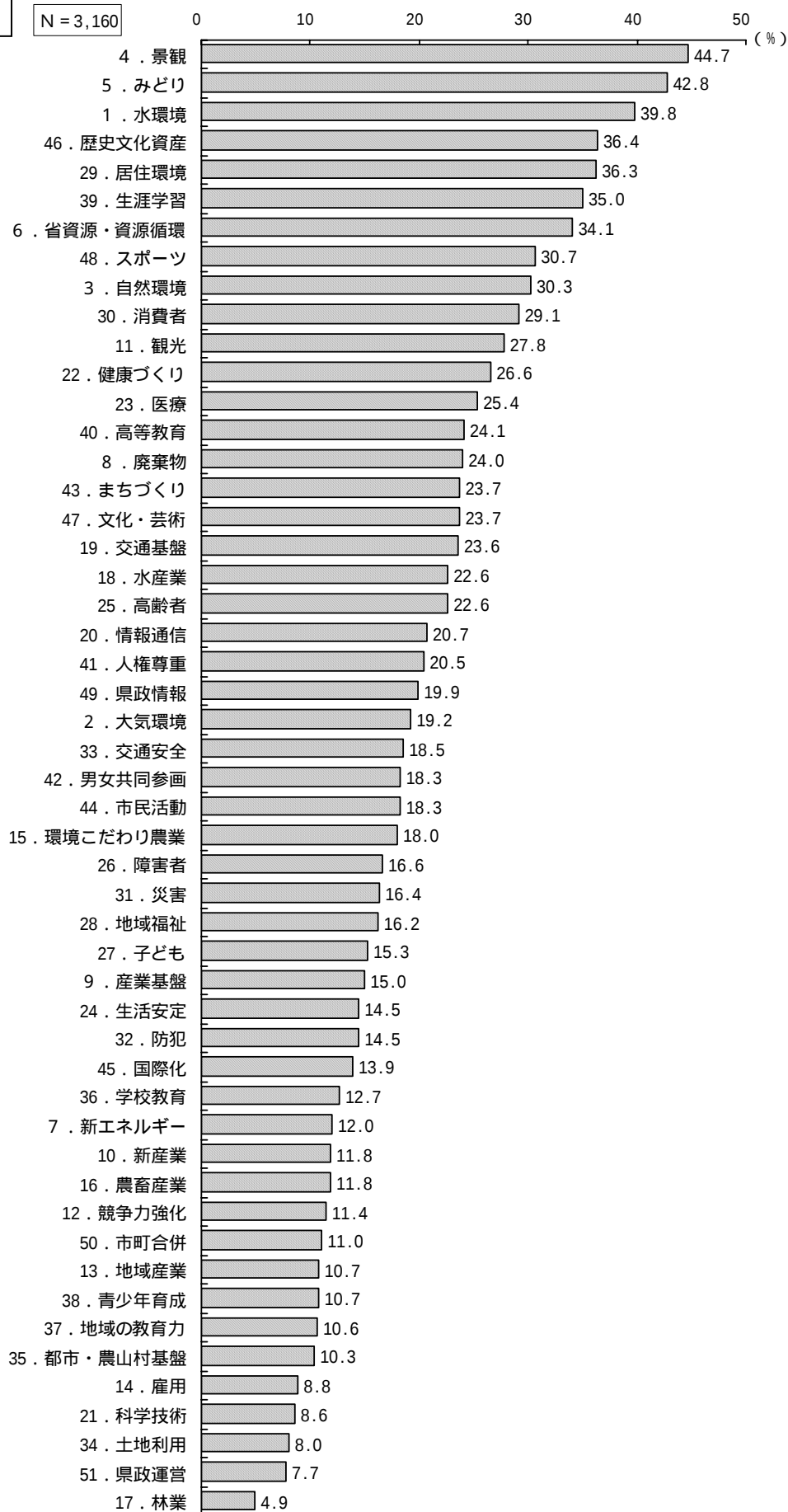
満足度の高い施策

『満足度』の最も高い施策は、「景観」で44.7%、次いで「みどり」の42.8%、「水環境」の39.8%となっており、環境の分野が上位3位を占めている。

満足度上位10項目の内訳は、環境の分野から5項目、暮らしの分野から2項目、自治・文化の分野から2項目、教育の分野から1項目となっている。

満足度

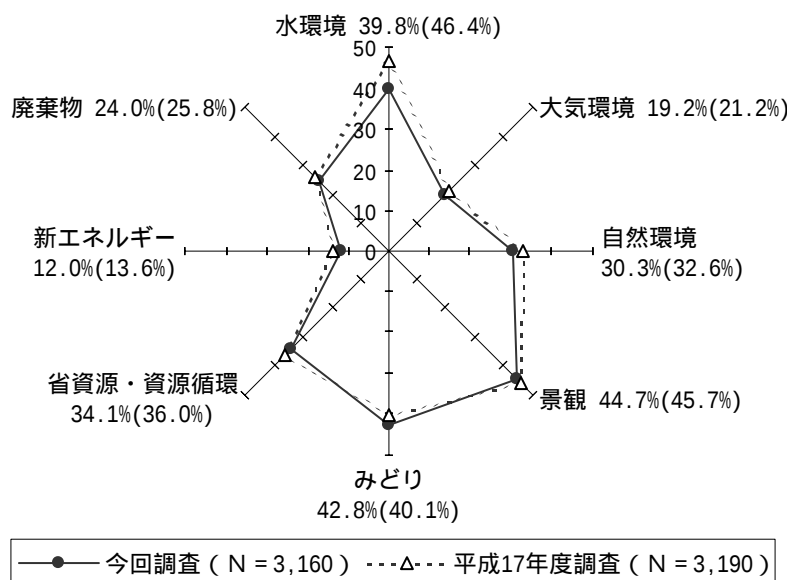
N = 3,160



- 1 環境分野の『満足度』【全体平均 30.9%（平成 17 年度調査 32.7%）】

環境の分野の 8 項目中、「景観」に対する『満足度』が最も高く 44.7%、次いで「みどり」が 42.8%、「水環境」が 39.8%となっている。

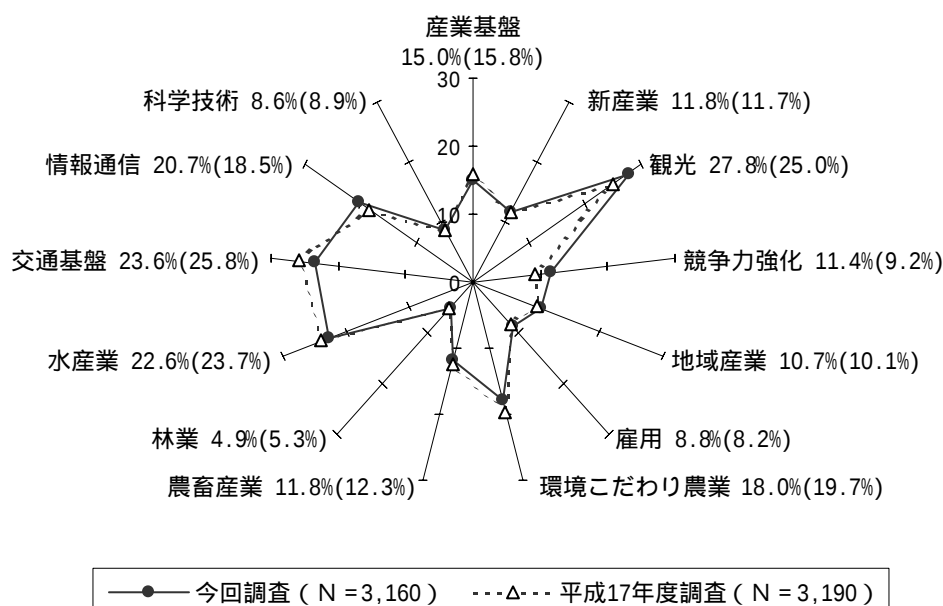
平成 17 年度調査と比較すると、『満足度』は「みどり」を除くすべての項目で低下しており、なかでも「水環境」は 6.6 ポイントと他に比べて大きく低下している。



- 2 産業・経済分野の『満足度』【全体平均 15.1%（平成 17 年度調査 14.9%）】

産業・経済の分野の 13 項目中、「観光」に対する『満足度』が最も高く 27.8%、次いで「交通基盤」が 23.6%、「水産業」が 22.6%となっている。

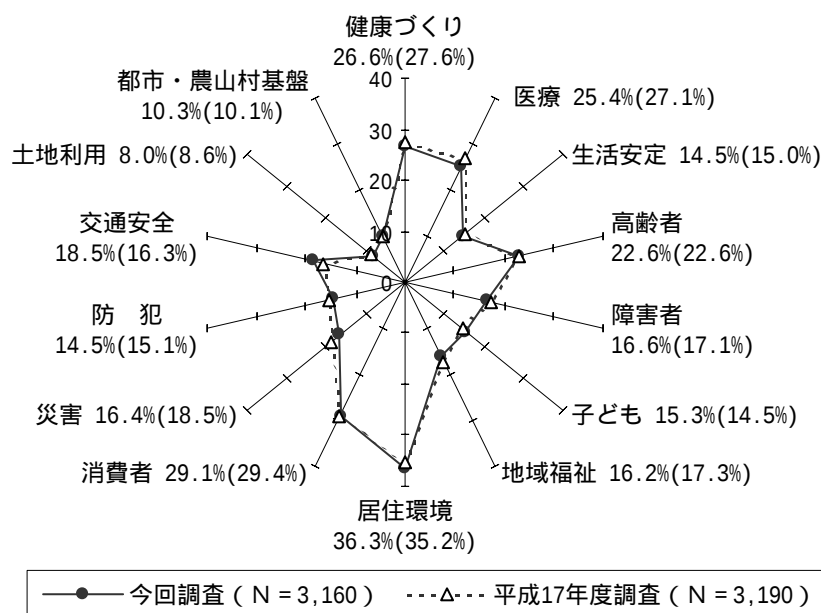
平成 17 年度調査と比較すると、『満足度』は「観光」、「競争力強化」、「情報通信」、「地域産業」、「雇用」、「新産業」で高くなっているが、その他 7 項目で低下しており、特に「交通基盤」では 2.2 ポイント低くなっている。



- 3 暮らし分野の『満足度』【全体平均 19.3% (平成 17 年度調査 19.6%)】

暮らしの分野の14項目中、「居住環境」に対する『満足度』が最も高く36.3%、次いで「消費者」が29.1%、「健康づくり」が26.6%となっている。

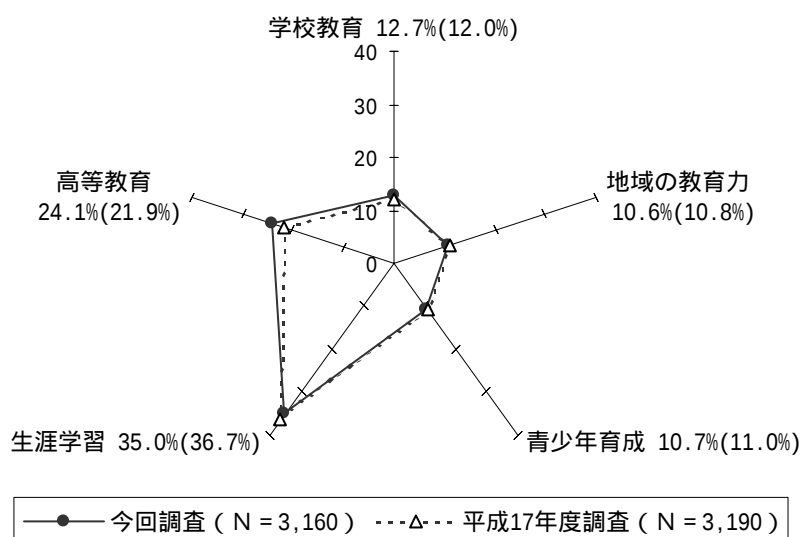
平成17年度調査と比較すると、『満足度』はどの項目も大きな差はみられないが、「災害」では2.1ポイント、「医療」が1.7ポイント低くなっており、「交通安全」が2.2ポイント高くなっている。



- 4 教育分野の『満足度』【全体平均 18.6% (平成 17 年度調査 18.5%)】

教育の分野の5項目中、「生涯学習」に対する『満足度』が最も高く35.0%、次いで「高等教育」が24.1%となっている。

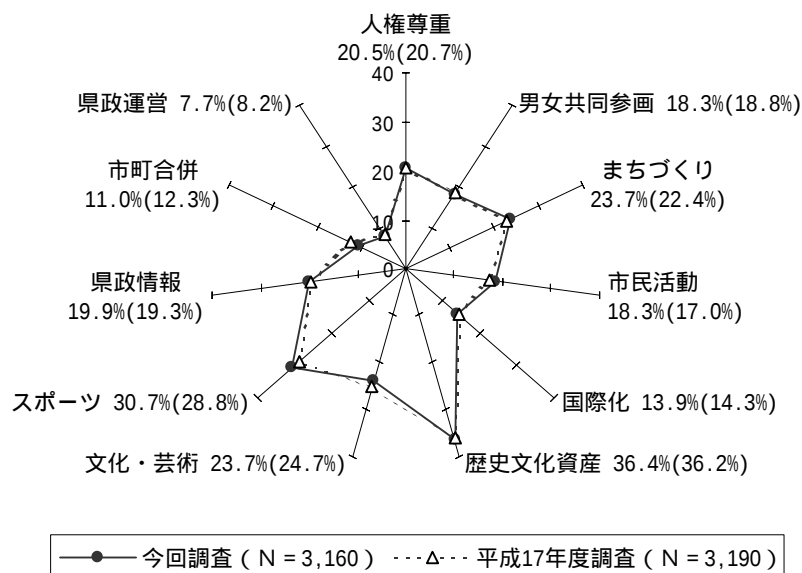
平成17年度調査と比較すると、『満足度』は「学校教育」と「高等教育」で高くなっており、「地域の教育力」、「青少年育成」、「生涯学習」で低下している。



- 5 自治・文化分野の『満足度』【全体平均 20.4%（平成 17 年度調査 20.2%）】

自治・文化の分野の11項目中、「歴史文化資産」に対する『満足度』が最も高く36.4%、次いで「スポーツ」が30.7%、「まちづくり」が23.7%となっている。

平成17年度調査と比較すると、『満足度』は「スポーツ」で1.9ポイント、「まちづくり」で1.3ポイント高くなっており、「市町合併」で1.3ポイント、「文化・芸術」で1.0ポイント低くなっている。



【地域別】

大津・湖西地域では「みどり」が、湖南・甲賀地域では「水環境」が、湖東・湖北地域では「景観」が、東近江地域では「景観」と「みどり」が同率でそれぞれ最も多くなっている。

各地域とも、「景観」「水環境」が5位内に入っているが、「みどり」については、湖北地域のみ5位に入っておらず、代わりに「観光」(40.9%)が5位に入っている。甲賀地域においては、「スポーツ」(39.5%)が2位と、他の地域に比べ多くなっている。

(上位5項目)

順位	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (N = 3,160)	4. 景観 (44.7%)	5. みどり (42.8%)	1. 水環境 (39.8%)	46. 歴史文化資産 (36.4%)	29. 居住環境 (36.3%)
大津地域 (N = 736)	5. みどり (46.5%)	4. 景観 (45.4%)	1. 水環境 (38.6%)	46. 歴史文化資産 (35.6%)	29. 居住環境 (34.8%)
湖南地域 (N = 660)	1. 水環境 (46.7%)	4. 景観 (46.4%)	5. みどり (43.3%)	29. 居住環境 (40.9%)	6. 省資源・資源循環 (40.3%)
甲賀地域 (N = 304)	1. 水環境 (40.1%)	48. スポーツ (39.5%)	5. みどり (36.2%)	4. 景観 (34.9%)	39. 生涯学習 (34.2%)
東近江地域 (N = 572)	4. 景観 / 5. みどり (45.1%)		39. 生涯学習 (38.8%)	46. 歴史文化資産 (35.7%)	1. 水環境 (35.3%)
湖東地域 (N = 318)	4. 景観 (44.7%)	5. みどり (40.9%)	46. 歴史文化資産 (36.5%)	1. 水環境 (35.2%)	29. 居住環境 (33.3%)
湖北地域 (N = 430)	4. 景観 (47.4%)	6. 省資源・資源循環 (43.7%)	29. 居住環境 (43.7%)	1. 水環境 (42.8%)	11. 観光 (40.9%)
湖西地域 (N = 137)	5. みどり (51.1%)	4. 景観 (44.5%)	6. 省資源・資源循環 (39.4%)	39. 生涯学習 (37.2%)	1. 水環境 / 46. 歴史文化資産 (34.3%)

【性別】

男性では「水環境」が最も多く42.1%で、次いで「景観」が41.6%、「みどり」が40.9%と続いている。女性では、「景観」が最も多く47.9%で、次いで「みどり」が45.3%、「水環境」が38.5%となっている。

(上位5項目)

順位	1位	2位	3位	4位	5位
男性 (N=1,475)	1. 水環境 (42.1%)	4. 景観 (41.6%)	5. みどり (40.9%)	46. 歴史文化資産 (36.4%)	29. 居住環境 (35.7%)
女性 (N=1,621)	4. 景観 (47.9%)	5. みどり (45.3%)	1. 水環境 (38.5%)	39. 生涯学習 (36.8%)	29. 居住環境 (36.7%)

【性・年代別】

男性では、20・30歳代で「景観」が1位となっており、40・50歳代で「水環境」、60歳代以上で「みどり」が1位となっている。女性では、20～40歳代と70歳以上で「景観」が、50・60歳代で「みどり」が1位となっている。

(上位5項目)

順位	1位	2位	3位	4位	5位
男性	20歳代 (N=146)	4. 景観 (45.9%)	5. みどり (41.8%)	46. 歴史文化資産 (37.7%)	3. 自然環境 (36.3%)
	30歳代 (N=229)	4. 景観 (41.0%)	1. 水環境 (39.3%)	29. 居住環境 / 46. 歴史文化資産 (37.6%)	5. みどり (34.1%)
	40歳代 (N=229)	1. 水環境 (42.4%)	4. 景観 (34.1%)	29. 居住環境 (32.8%)	5. みどり (31.4%)
	50歳代 (N=351)	1. 水環境 (47.0%)	5. みどり (36.2%)	39. 生涯学習 (34.8%)	6. 省資源・資源循環 (33.9%)
	60歳代 (N=271)	5. みどり (48.7%)	4. 景観 (46.9%)	46. 歴史文化資産 (42.4%)	1. 水環境 (38.0%)
	70歳以上 (N=245)	5. みどり (54.7%)	4. 景観 (53.1%)	1. 水環境 (48.2%)	29. 居住環境 (44.1%)
女性	20歳代 (N=285)	4. 景観 (46.7%)	46. 歴史文化資産 (42.1%)	6. 省資源・資源循環 (39.6%)	5. みどり (36.5%)
	30歳代 (N=237)	4. 景観 (39.2%)	6. 省資源・資源循環 (35.4%)	1. 水環境 / 46. 歴史文化資産 (34.6%)	29. 居住環境 (35.4%)
	40歳代 (N=236)	4. 景観 (48.3%)	5. みどり (47.9%)	1. 水環境 (43.2%)	5. みどり (33.8%)
	50歳代 (N=292)	5. みどり (44.5%)	4. 景観 (43.5%)	6. 省資源・資源循環 / 39. 生涯学習 (39.8%)	1. 水環境 (39.7%)
	60歳代 (N=267)	5. みどり (56.9%)	4. 景観 (54.3%)	39. 生涯学習 (43.8%)	39. 生涯学習 (34.9%)
	70歳以上 (N=302)	4. 景観 (54.0%)	5. みどり (51.3%)	1. 水環境 / 29. 居住環境 (41.6%)	6. 省資源・資源循環 (33.9%)

【定住意向別】

「住みつづけたい」、または「住みつづけたいとは思わない」と回答した人とも１位は「景観」となっており、次いで「住みつづけたい」と回答した人では「みどり」が２位、「水環境」が３位であり、「住みつづけたいとは思わない」と回答した人では「歴史文化資産」が２位、「文化・芸術」が３位となっている。

(上位５項目)

順 位	１ 位	２ 位	３ 位	４ 位	５ 位
住みつづけたい (N = 2,316)	４．景観 (49.0%)	５．みどり (45.9%)	１．水環境 (44.7%)	29．居住環境 (39.7%)	46．歴史文化資産 (38.0%)
住みつづけたい とは思わない (N = 99)	４．景観 (35.4%)	46．歴史文化資産 (32.3%)	47．文化・芸術 (28.3%)	６．省資源・資源循環 (25.3%)	５．みどり / 22．健康づくり (24.2%)
どちらとも いえない (N = 685)	５．みどり (38.7%)	４．景観 (34.3%)	46．歴史文化資産 (32.0%)	６．省資源・資源循環 (30.2%)	39．生涯学習 (29.1%)

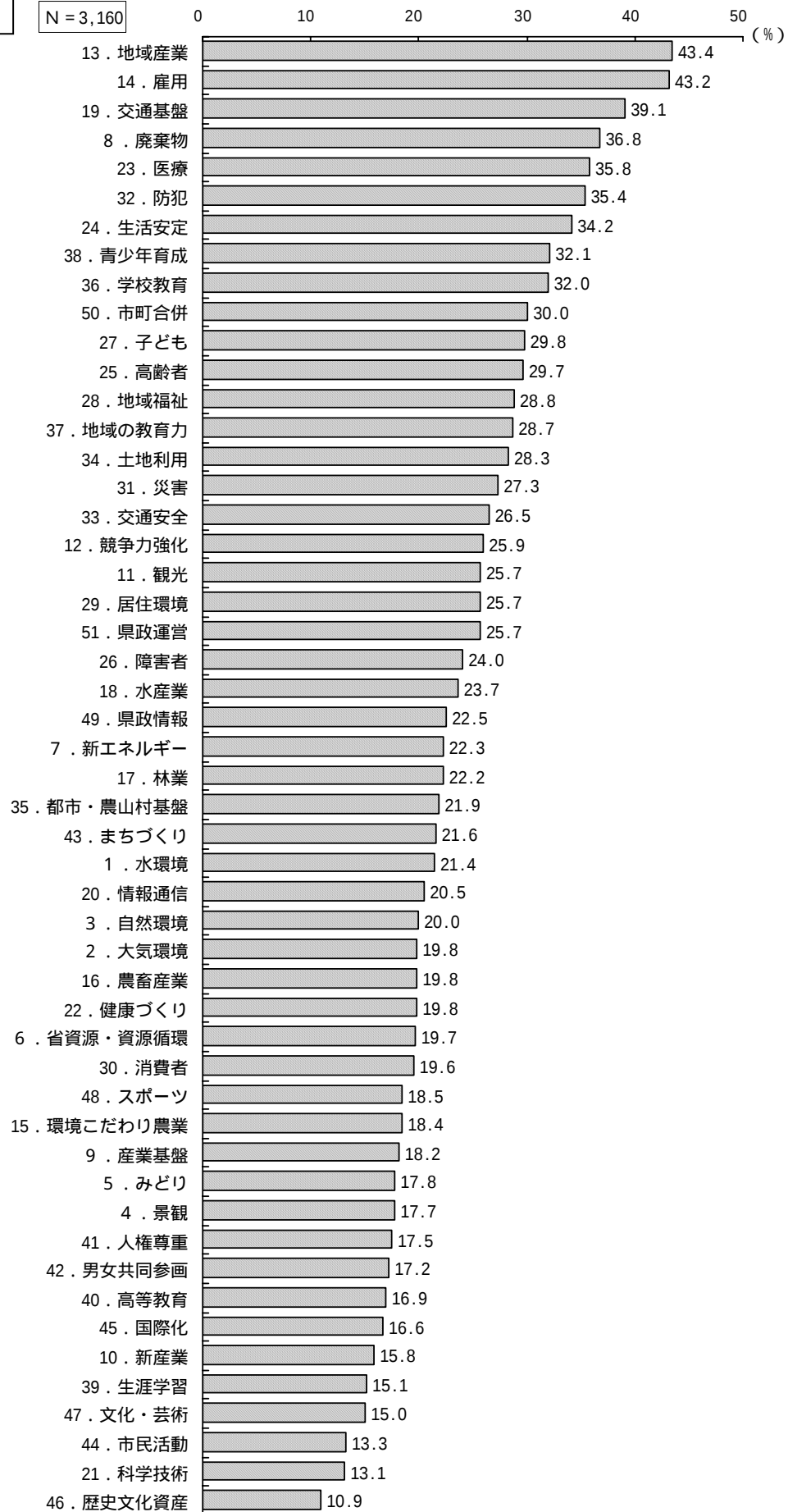
『不満度』の高い施策

『不満度』の最も高い施策は、「地域産業」で43.4%、次いで「雇用」の43.2%、「交通基盤」の39.1%となっており、産業・経済の分野が上位３位を占めている。

不満度上位10項目の内訳は、産業・経済の分野から３項目、暮らしの分野から３項目、教育の分野から２項目、環境の分野から１項目、自治・文化の分野から１項目となっている。

不満度

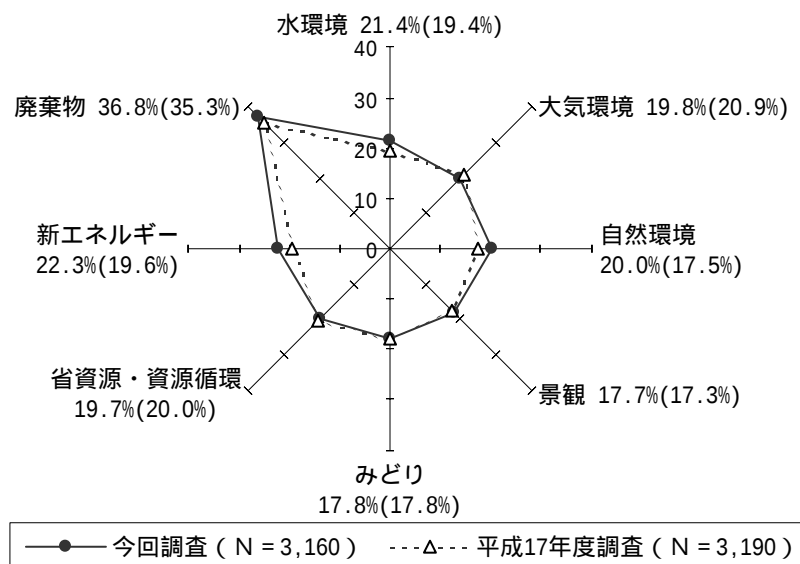
N = 3,160



- 1 環境分野の『不満度』【全体平均 21.9% (平成 17 年度調査 21.0%)】

環境の分野の 8 項目中、「廃棄物」に対する『不満度』が最も高く 36.8%、次いで「新エネルギー」が 22.3%、「水環境」が 21.4%となっている。

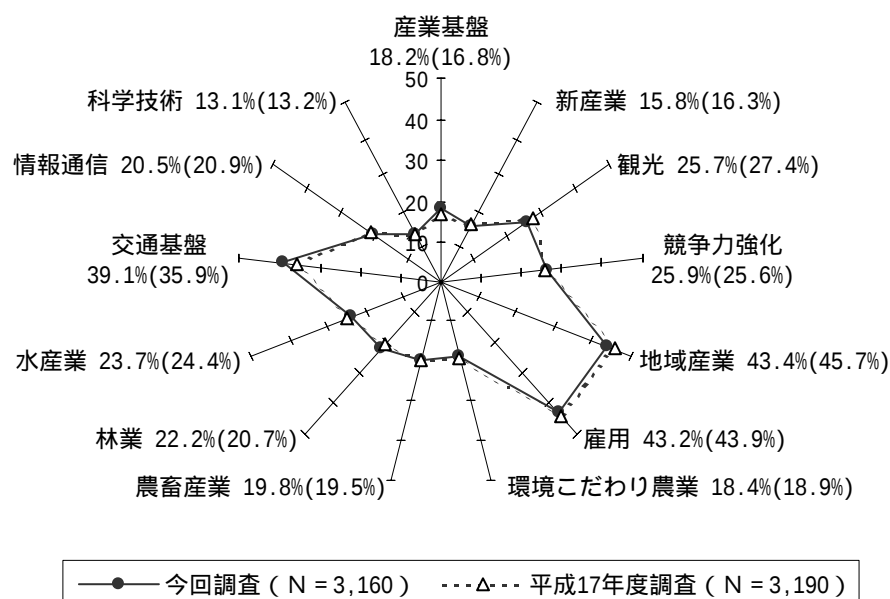
平成17年度調査と比較すると、『不満度』は「大気環境」と「省資源・資源循環」を除く項目で高くなっており、「新エネルギー」が 2.7ポイント、「自然環境」が 2.5ポイント高くなっている。



- 2 産業・経済分野の『不満度』【全体平均 25.3% (平成 17 年度調査 25.3%)】

産業・経済の分野の13項目中、「地域産業」に対する『不満度』が最も高く 43.4%、次いで「雇用」が 43.2%、「交通基盤」が 39.1%となっている。

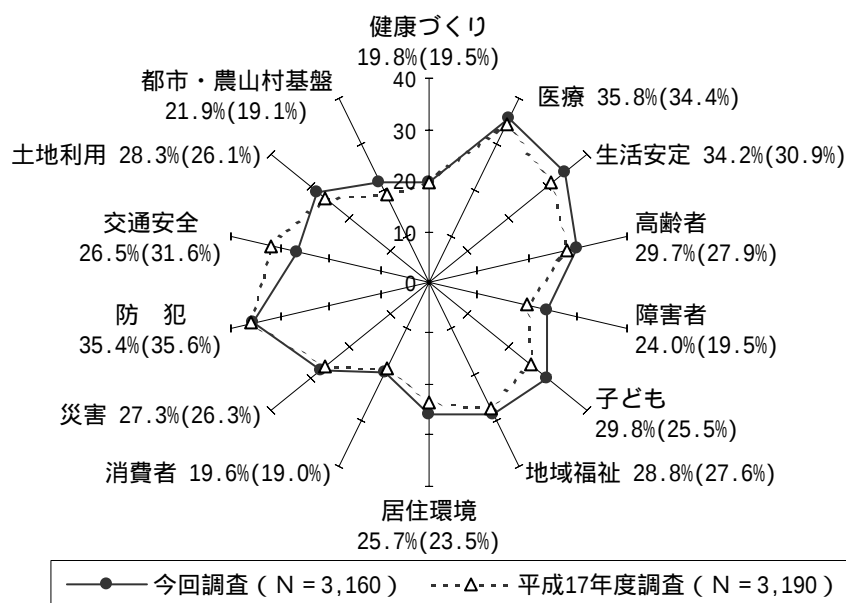
平成17年度調査と比較すると、『不満度』は「産業基盤」、「競争力強化」、「農畜産業」、「林業」、「交通基盤」で高くなっているが、その他 8 項目では低下している。



- 3 暮らし分野の『不満度』【全体平均 27.6% (平成 17 年度調査 26.2%)】

暮らしの分野の14項目中、「医療」に対する『不満度』が最も高く35.8%、次いで「防犯」が35.4%、「生活安定」が34.2%となっている。

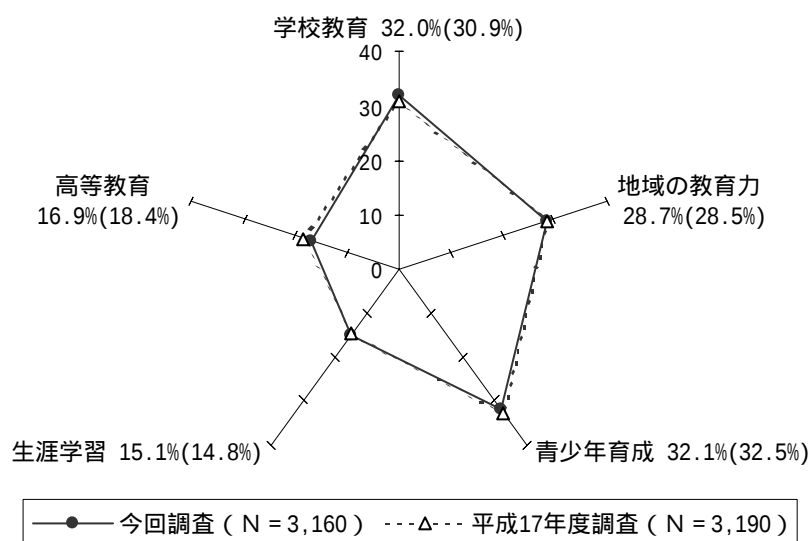
平成17年度調査と比較すると、『不満度』は「防犯」では0.2ポイント、「交通安全」が5.1ポイント低くなっているほかは高くなっており、「障害者」では4.5ポイント、「子ども」では4.3ポイント高くなっている。



- 4 教育分野の『不満度』【全体平均 25.0% (平成 17 年度調査 25.0%)】

教育の分野の5項目中、「青少年育成」に対する『不満度』が最も高く32.1%、次いで「学校教育」が32.0%となっている。

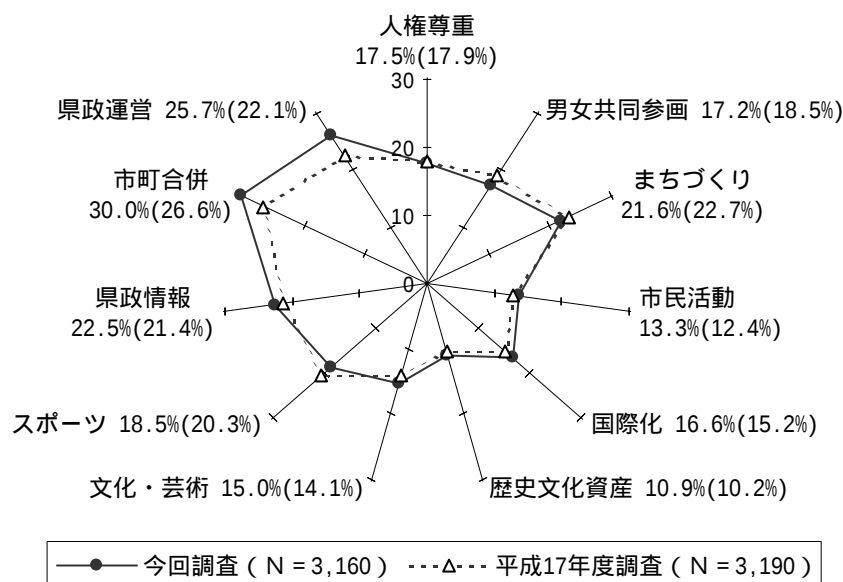
平成17年度調査と比較すると、『不満度』は「学校教育」と「地域の教育力」で高くなっており、「青少年育成」で低下している。



- 5 自治・文化分野の『不満度』【全体平均 19.0%（平成 17 年度調査 18.3%）】

自治・文化の分野の11項目中、「市町合併」に対する『不満度』が最も高く30.0%、次いで「県政運営」が25.7%、「県政情報」が22.5%となっている。

平成17年度調査と比較すると、『不満度』は「人権尊重」、「男女共同参画」、「まちづくり」、「スポーツ」で低下しており、それ以外の項目では高くなっている。



【地域別】

大津・湖南地域では「地域産業」が1位となっており、甲賀・東近江・湖北地域では「雇用」、湖東地域では「廃棄物」と「雇用」(同率)、湖西地域では「医療」が1位となっている。また、「市町合併」は東近江地域では2位、湖北地域では5位、湖西地域では3位に入っており、他地域よりも高い割合となっている。

(上位5項目)

順位	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (N = 3,160)	13. 地域産業 (43.4%)	14. 雇用 (43.2%)	19. 交通基盤 (39.1%)	8. 廃棄物 (36.8%)	23. 医療 (35.8%)
大津地域 (N = 736)	13. 地域産業 (50.3%)	14. 雇用 (44.0%)	19. 交通基盤 (40.8%)	8. 廃棄物 (36.4%)	23. 医療 (34.8%)
湖南地域 (N = 660)	13. 地域産業 (40.3%)	19. 交通基盤 (37.0%)	8. 廃棄物 (33.9%)	32. 防犯 (33.9%)	36. 学校教育 (33.0%)
甲賀地域 (N = 304)	14. 雇用 (51.3%)	13. 地域産業 (50.7%)	19. 交通基盤 (45.4%)	23. 医療 (42.8%)	24. 生活安定 (39.5%)
東近江地域 (N = 572)	14. 雇用 (45.1%)	50. 市町合併 (42.7%)	13. 地域産業 (42.3%)	19. 交通基盤 (42.3%)	32. 防犯 (39.2%)
湖東地域 (N = 318)	8. 廃棄物 / 14. 雇用 (44.7%)		23. 医療 (44.0%)	13. 地域産業 / 24. 生活安定 (41.5%)	
湖北地域 (N = 430)	14. 雇用 (44.7%)	19. 交通基盤 (34.4%)	13. 地域産業 / 32. 防犯 (34.0%)		8. 廃棄物 / 50. 市町合併 (33.5%)
湖西地域 (N = 137)	23. 医療 (59.9%)	14. 雇用 (56.2%)	13. 地域産業 / 50. 市町合併 (46.0%)		19. 交通基盤 (39.4%)

【性別】

男性では、1位は「地域産業」(48.5%)となっており、次いで「雇用」(45.5%)「交通基盤」(42.5%)となっている。女性では、1位は「雇用」(41.5%)となっており、次いで「地域産業」(39.8%)「交通基盤」(36.0%)となっており、「地域産業」「雇用」とも男性は女性より高い割合となっている。

(上位5項目)

順位	1位	2位	3位	4位	5位
男性 (N=1,475)	13. 地域産業 (48.5%)	14. 雇用 (45.5%)	19. 交通基盤 (42.5%)	8. 廃棄物 (41.0%)	32. 防犯 (36.9%)
女性 (N=1,621)	14. 雇用 (41.5%)	13. 地域産業 (39.8%)	19. 交通基盤 (36.0%)	23. 医療 (34.9%)	32. 防犯 (34.4%)

【性・年代別】

男性では20・30歳代、60歳代で「地域産業」が、40歳代では「交通基盤」、50歳代では「雇用」、70歳以上では「廃棄物」がそれぞれ1位となっている。女性では、20・40・50歳代では「雇用」、30歳代では「防犯」と「学校教育」(同率)、60歳代では「地域産業」、70歳以上では「地域産業」と「防犯」(同率)がそれぞれ1位となっている。また、女性では若い年代で「子ども」が5位内に入っており、30・40歳代では「学校教育」が上位となっている。

(上位5項目)

順位	1位	2位	3位	4位	5位
男性	20歳代 (N=146)	13. 地域産業 (53.4%)	19. 交通基盤 (51.4%)	14. 雇用 (45.2%)	20. 情報通信 (41.8%)
	30歳代 (N=229)	13. 地域産業 (46.3%)	14. 雇用 (45.9%)	19. 交通基盤 / 24. 生活安定 (41.0%)	
	40歳代 (N=229)	19. 交通基盤 (53.7%)	13. 地域産業 (53.3%)	8. 廃棄物 (48.9%)	23. 医療 (45.0%)
	50歳代 (N=351)	14. 雇用 (58.1%)	13. 地域産業 (53.0%)	19. 交通基盤 (44.4%)	8. 廃棄物 (42.5%)
	60歳代 (N=271)	13. 地域産業 (49.4%)	8. 廃棄物 (47.2%)	14. 雇用 (45.8%)	19. 交通基盤 (39.9%)
	70歳以上 (N=245)	8. 廃棄物 (37.6%)	13. 地域産業 (35.1%)	25. 高齢者 (33.9%)	14. 雇用 (33.1%)
女性	20歳代 (N=285)	14. 雇用 (49.5%)	13. 地域産業 (44.6%)	19. 交通基盤 (41.8%)	32. 防犯 (40.0%)
	30歳代 (N=237)	32. 防犯 / 36. 学校教育 (43.5%)		8. 廃棄物 (42.2%)	14. 雇用 / 27. 子ども (41.8%)
	40歳代 (N=236)	14. 雇用 (55.5%)	36. 学校教育 (48.3%)	19. 交通基盤 (47.9%)	13. 地域産業 (47.0%)
	50歳代 (N=292)	14. 雇用 (50.3%)	13. 地域産業 (46.6%)	19. 交通基盤 (39.4%)	23. 医療 (38.0%)
	60歳代 (N=267)	13. 地域産業 (40.1%)	14. 雇用 (35.6%)	24. 生活安定 (31.1%)	8. 廃棄物 / 23. 医療 (29.6%)
	70歳以上 (N=302)	13. 地域産業 / 32. 防犯 (29.5%)		23. 医療 (28.5%)	24. 生活安定 (26.5%)

【定住意向別】

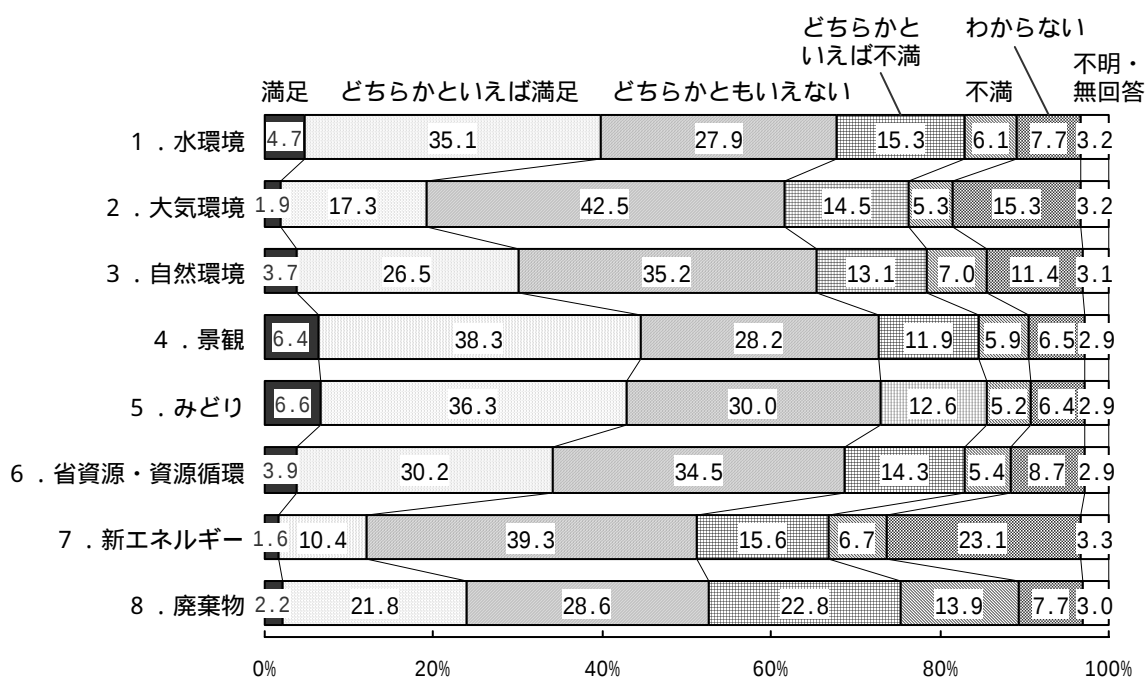
「住みつづけたい」「住みつづけたいとは思わない」と回答した人とも「地域産業」が1位となっており、「住みつづけたい」と回答した人は42.3%、「住みつづけたいとは思わない」と回答した人は63.6%となっている。次いで「住みつづけたい」と回答した人は「雇用」(41.5%)「交通基盤」(36.5%)「住みつづけたいとは思わない」と回答した人は「交通基盤」(56.6%)「情報通信」(43.4%)と続いている。

(上位5項目)

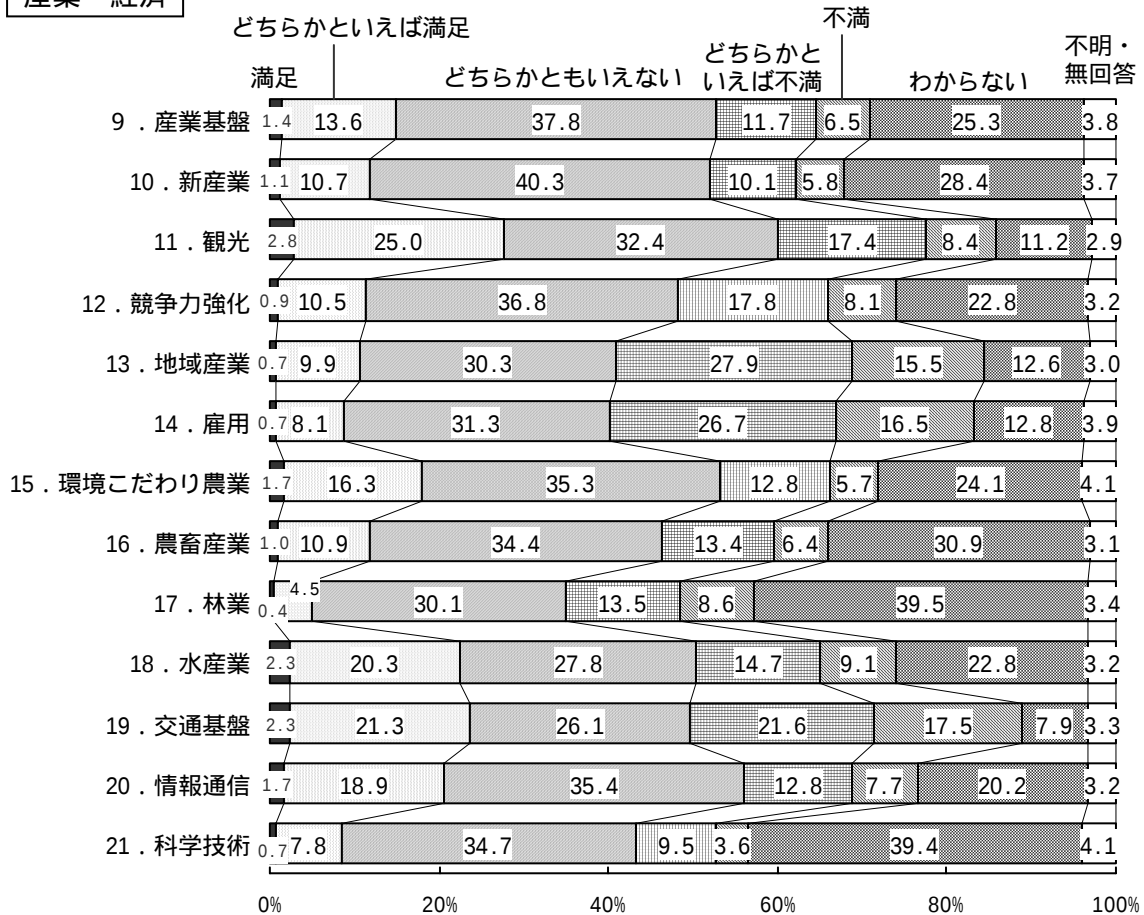
順位	1位	2位	3位	4位	5位
住みつづけたい (N = 2,316)	13. 地域産業 (42.3%)	14. 雇用 (41.5%)	19. 交通基盤 (36.5%)	8. 廃棄物 (36.2%)	32. 防犯 (34.6%)
住みつづけたい とは思わない (N = 99)	13. 地域産業 (63.6%)	19. 交通基盤 (56.6%)	20. 情報通信 (43.4%)	23. 医療 / 36. 学校教育 (42.4%)	
どちらとも いえない (N = 685)	14. 雇用 (49.9%)	19. 交通基盤 (46.6%)	13. 地域産業 (46.3%)	23. 医療 (41.9%)	8. 廃棄物 (40.4%)

県政に対する『満足度』、『不満度』(全体の結果)

環境



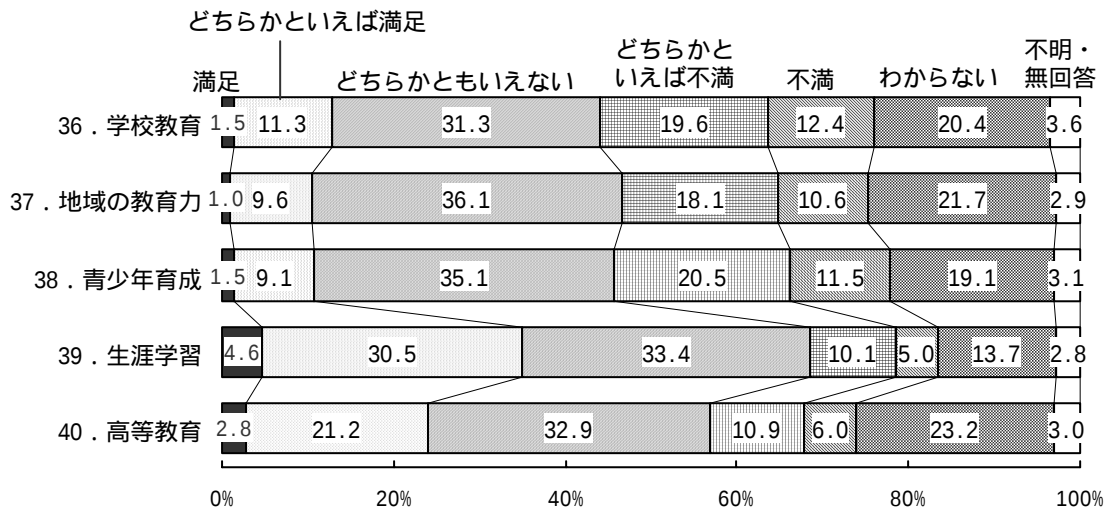
産業・経済



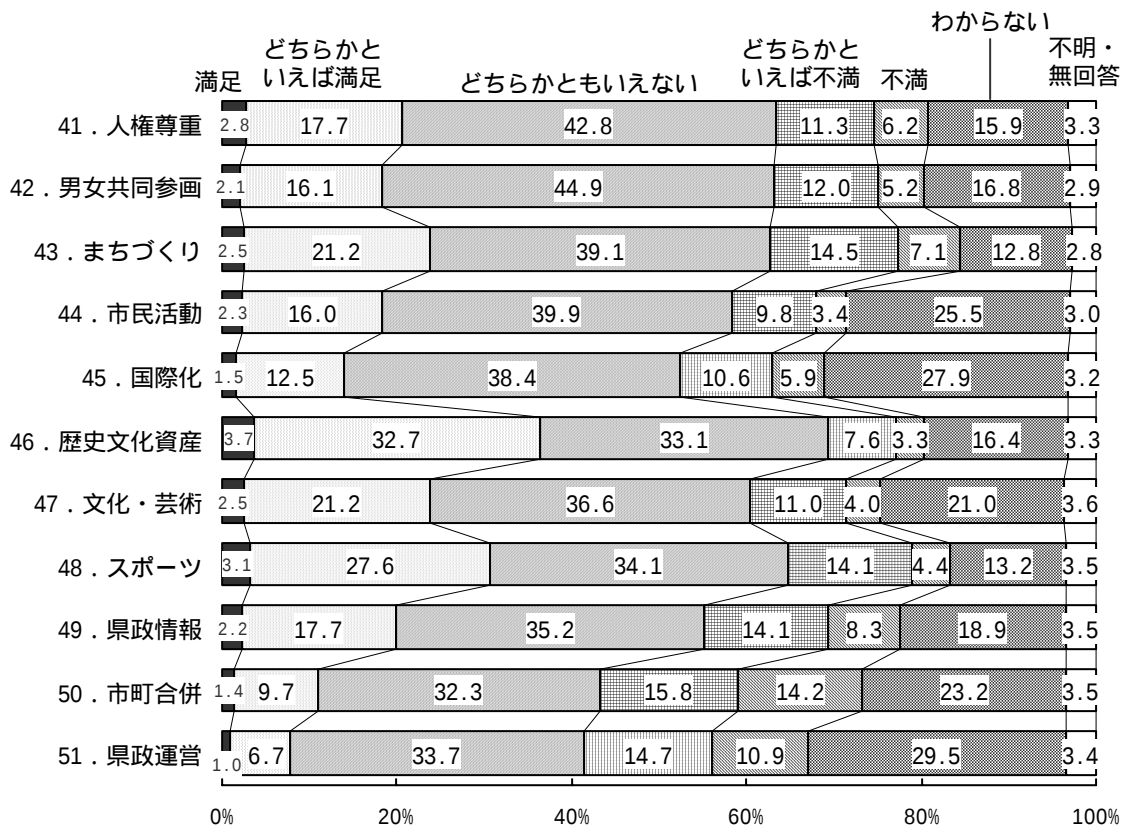
暮らし



教育



自治・文化

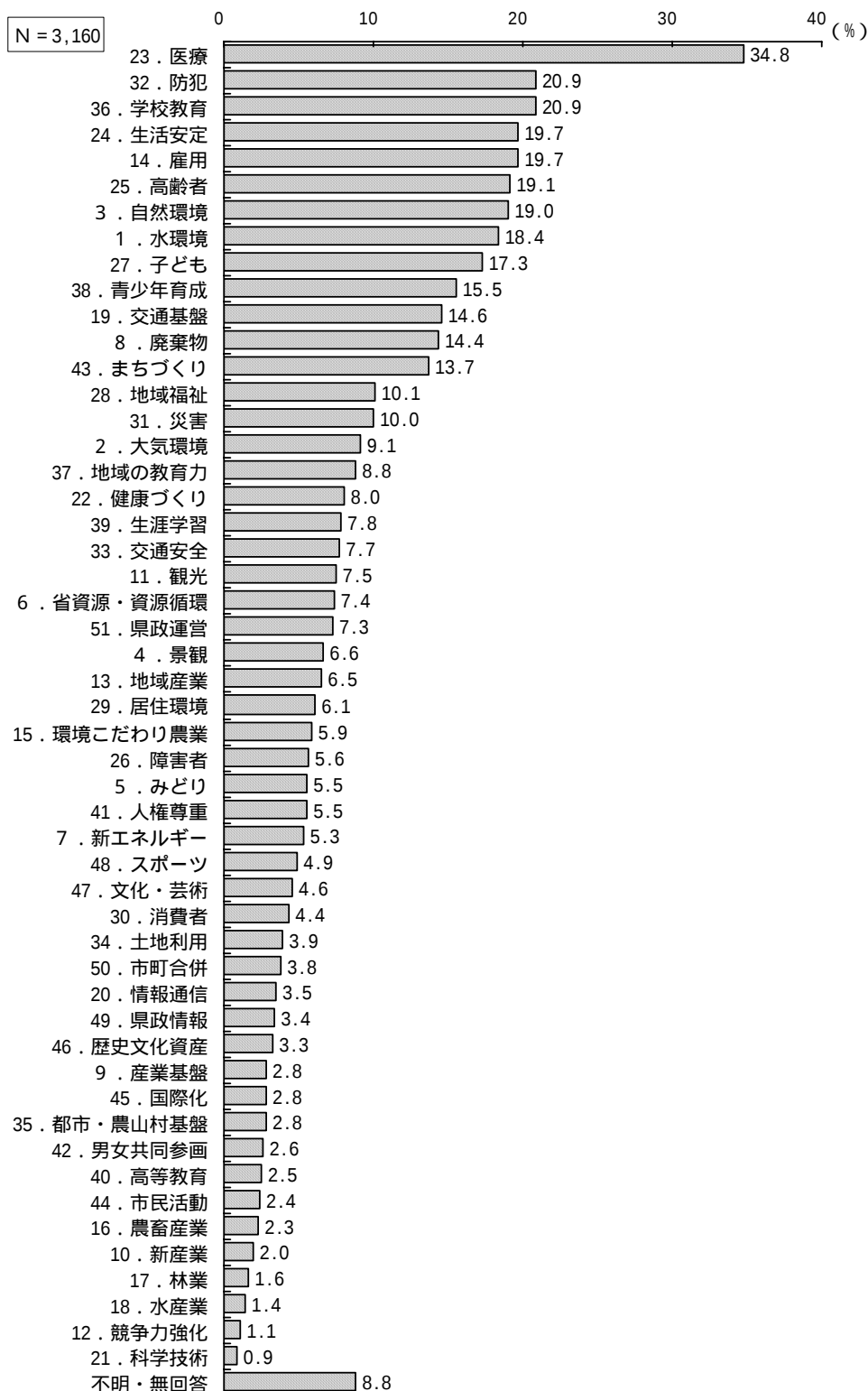


(4) 県政への要望

問8 あなたが、いま県の施策で力を入れてほしいと思うことはどんなことですか。前問の内容を参考に、1～51の中から5つまで選んでください。(○は5つまで)

全体の順位

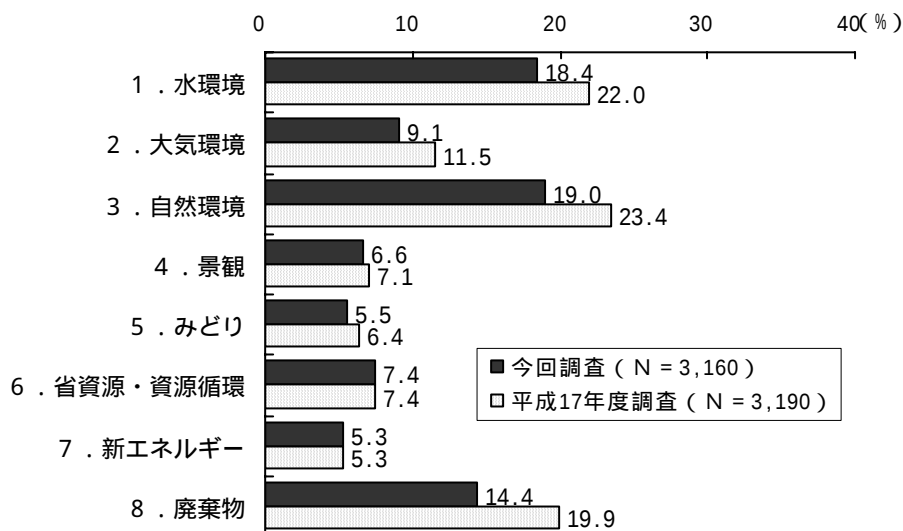
全体では、「医療」が最も多く34.8%で、次いで「防犯」と「学校教育」が20.9%となっている。要望の多い10項目の内訳は、暮らしの分野から5項目、環境の分野から2項目、教育の分野から2項目、産業・経済の分野から1項目となっている。



環境分野における要望

環境分野では、「自然環境」が最も多く19.0%で、次いで「水環境」が18.4%、「廃棄物」が14.4%となっている。

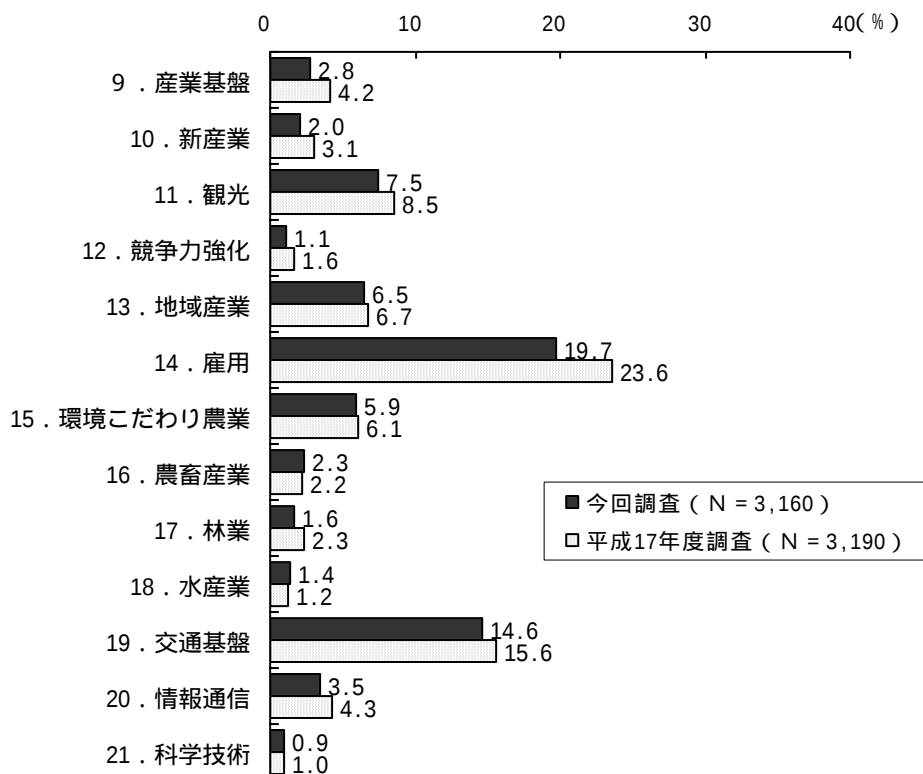
平成17年度調査と比較すると、「省資源・資源循環」、「新エネルギー」が同率である以外は低下しており、「廃棄物」では5.5ポイント、「自然環境」では4.4ポイント低くなっている。



産業・経済分野における要望

産業・経済分野では、「雇用」が最も多く19.7%で、次いで「交通基盤」が14.6%、「観光」が7.5%となっている。

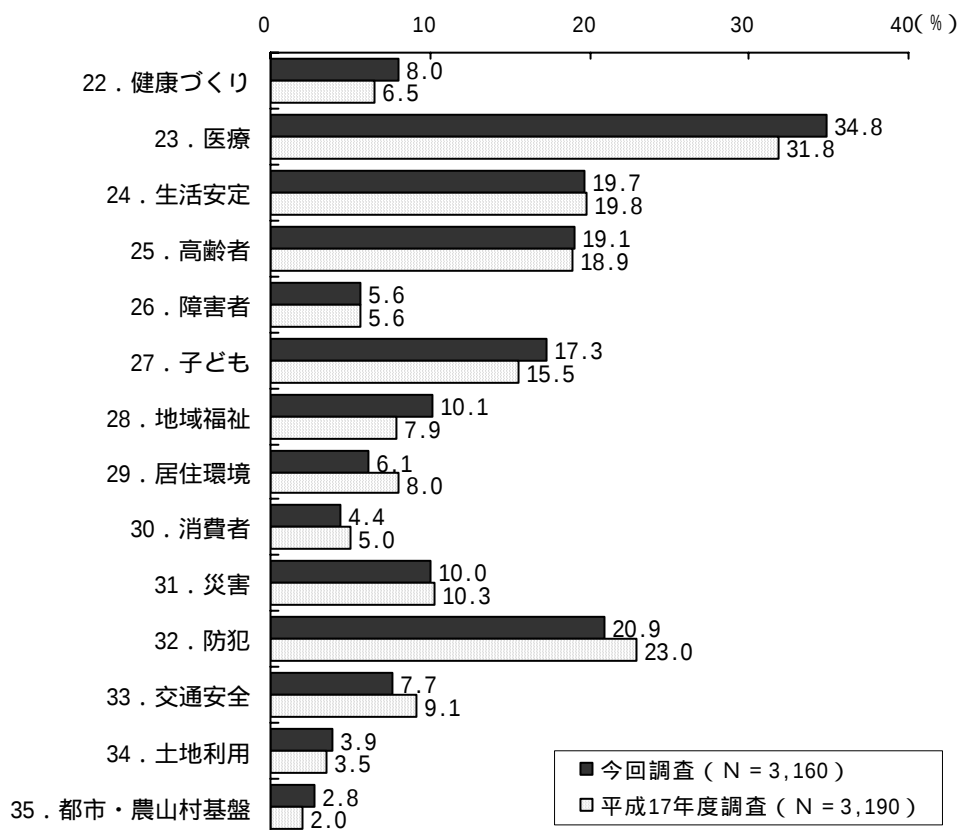
平成17年度調査と比較すると、「農畜産業」、「水産業」以外は低下しており、「雇用」が3.9ポイント、「産業基盤」が1.4ポイント低くなっている。



暮らしの分野の要望

暮らしの分野では、「医療」が最も多く34.8%で、次いで「防犯」が20.9%、「生活安定」19.7%となっている。

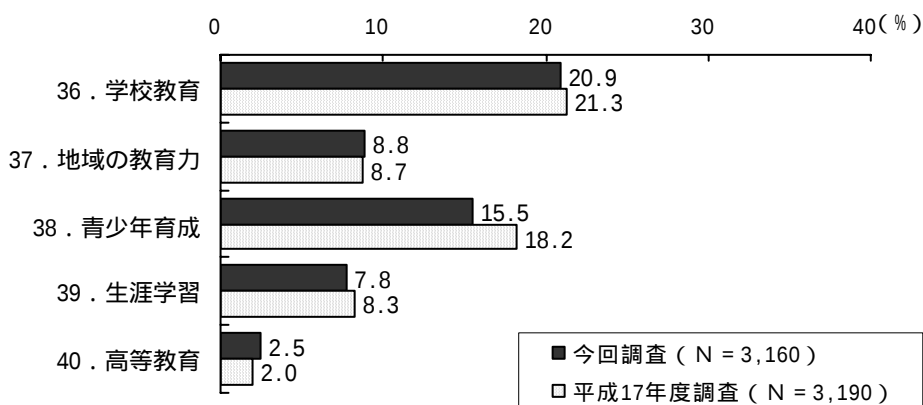
平成17年度調査と比較すると、「医療」では3.0ポイント高くなっているが、「防犯」では2.1ポイント、「居住環境」では1.9ポイント低くなっている。



教育分野の要望

教育分野では、「学校教育」が最も多く20.9%で、次いで「青少年育成」が15.5%、「地域の教育力」が8.8%となっている。

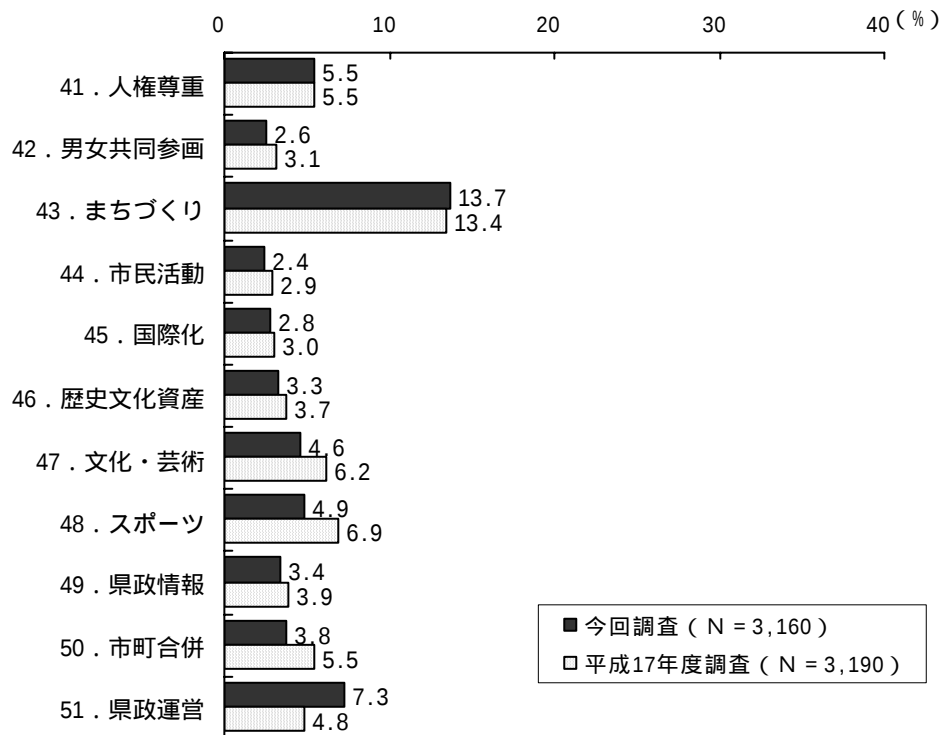
平成17年度調査と比較すると、「地域の教育力」、「高等教育」は高くなっているが、「学校教育」、「青少年育成」、「生涯学習」では低下している。



自治・文化の分野の要望

自治・文化の分野では、「まちづくり」が最も多く13.7%で、次いで「県政運営」が7.3%、「人権尊重」5.5%となっている。

平成17年度調査と比較すると、「人権尊重」では同率で、高くなっているのは「まちづくり」、「県政運営」となっており、それ以外の項目では低下している。



【地域別】

いずれの地域においても「医療」が1位となっており、次いで、大津地域では「学校教育」、湖南・甲賀・湖北地域では「防犯」、東近江地域では「生活安定」、湖東地域では「自然環境」、湖西地域では「雇用」が続いている。

(上位5項目)

順位	1位	2位	3位	4位	5位
全体 (N = 3,160)	23. 医療 (34.8%)	32. 防犯 (20.9%)	36. 学校教育 (20.9%)	24. 生活安定 (19.7%)	14. 雇用 (19.7%)
大津地域 (N = 736)	23. 医療 (29.9%)	36. 学校教育 (23.9%)	1. 水環境 (23.6%)	24. 生活安定 (20.1%)	32. 防犯 (19.6%)
湖南地域 (N = 660)	23. 医療 (32.7%)	32. 防犯 (23.9%)	36. 学校教育 (22.7%)	3. 自然環境 (21.5%)	27. 子ども (20.6%)
甲賀地域 (N = 304)	23. 医療 (34.2%)	32. 防犯 (23.7%)	14. 雇用 / 19. 交通基盤 / 36. 学校教育 (22.4%)		
東近江地域 (N = 572)	23. 医療 (39.2%)	24. 生活安定 (22.4%)	14. 雇用 (21.3%)	1. 水環境 (20.3%)	3. 自然環境 / 25. 高齢者 (18.5%)
湖東地域 (N = 318)	23. 医療 (37.1%)	3. 自然環境 (23.3%)	36. 学校教育 (21.4%)	25. 高齢者 (20.1%)	14. 雇用 (19.5%)
湖北地域 (N = 430)	23. 医療 (34.4%)	32. 防犯 (26.0%)	25. 高齢者 (22.3%)	14. 雇用 (20.9%)	24. 生活安定 (20.9%)
湖西地域 (N = 137)	23. 医療 (48.9%)	14. 雇用 (29.2%)	24. 生活安定 (23.4%)	1. 水環境 / 36. 学校教育 (19.7%)	

【性別】

男女とも「医療」が1位となっており、男性30.2%、女性38.8%と、女性のほうが割合は高い。次いで、男性は「水環境」(21.0%)、女性は「防犯」(23.0%)となっており、3位は男女とも「学校教育」が続いている。

(上位5項目)

順位	1位	2位	3位	4位	5位
男性 (N=1,475)	23. 医療 (30.2%)	1. 水環境 (21.0%)	36. 学校教育 (19.7%)	24. 生活安定 (19.1%)	14. 雇用 (19.0%)
女性 (N=1,621)	23. 医療 (38.8%)	32. 防犯 (23.0%)	36. 学校教育 (22.3%)	25. 高齢者 (21.4%)	3. 自然環境 (20.9%)

【性・年代別】

女性は全ての年代で「医療」が1位を占めているが、男性は20歳代では「交通基盤」、30歳代では「子ども」、40・60歳代では「医療」、50歳代では「雇用」、70歳以上では「高齢者」がそれぞれ1位となっている。

(上位5項目)

順位	1位	2位	3位	4位	5位
男性	20歳代 (N=146)	19. 交通基盤 (30.1%)	23. 医療 (28.8%)	43. まちづくり (24.7%)	1. 水環境 / 24. 生活安定 (24.0%)
	30歳代 (N=229)	27. 子ども (47.2%)	23. 医療 (34.1%)	32. 防犯 (30.1%)	36. 学校教育 (28.8%)
	40歳代 (N=229)	23. 医療 (28.4%)	32. 防犯 (27.1%)	36. 学校教育 (25.3%)	27. 子ども (19.7%)
	50歳代 (N=351)	14. 雇用 (29.9%)	1. 水環境 / 23. 医療 (25.9%)	3. 自然環境 (20.8%)	14. 雇用 (18.8%)
	60歳代 (N=271)	23. 医療 (37.3%)	25. 高齢者 (22.1%)	1. 水環境 (21.8%)	8. 廃棄物 (20.7%)
	70歳以上 (N=245)	25. 高齢者 (31.8%)	23. 医療 (28.2%)	24. 生活安定 (20.0%)	38. 青少年育成 (19.2%)
女性	20歳代 (N=285)	23. 医療 (36.1%)	32. 防犯 (34.4%)	27. 子ども (29.8%)	14. 雇用 (28.1%)
	30歳代 (N=237)	23. 医療 (47.3%)	27. 子ども (46.0%)	36. 学校教育 (36.7%)	32. 防犯 (32.5%)
	40歳代 (N=236)	23. 医療 (44.1%)	36. 学校教育 (36.4%)	32. 防犯 (28.0%)	3. 自然環境 (26.7%)
	50歳代 (N=292)	23. 医療 (30.8%)	14. 雇用 (29.1%)	24. 生活安定 (28.1%)	3. 自然環境 (22.3%)
	60歳代 (N=267)	23. 医療 (34.1%)	38. 青少年育成 (24.3%)	24. 生活安定 (24.0%)	25. 高齢者 (23.6%)
	70歳以上 (N=302)	23. 医療 (42.1%)	25. 高齢者 (40.7%)	3. 自然環境 (17.5%)	24. 生活安定 (16.2%)

【定住意向別】

「住みつづけたい」と回答した人では、「医療」(35.7%)が1位となっており、次いで「防犯」(20.7%)、「高齢者」(20.4%)となっている。「住みつづけたいとは思わない」と回答した人では、「学校教育」(28.3%)が1位となっており、次いで「水環境」「医療」が同率(24.2%)で続いている。「どちらともいえない」と回答した人では、「医療」(33.4%)が最も多く、次いで「学校教育」(24.4%)、「防犯」(23.1%)と続いている。

(上位5項目)

順 位	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
住みつづけたい (N = 2,316)	23 . 医療 (35.7%)	32 . 防犯 (20.7%)	25 . 高齢者 (20.4%)	24 . 生活安定 (19.9%)	14 . 雇用 (19.8%)
住みつづけたい とは思わない (N = 99)	36 . 学校教育 (28.3%)	1 . 水環境 / 23 . 医療 (24.2%)		32 . 防犯 (21.2%)	14 . 雇用 / 27 . 子ども (20.2%)
どちらとも いえない (N = 685)	23 . 医療 (33.4%)	36 . 学校教育 (24.4%)	32 . 防犯 (23.1%)	3 . 自然環境 (21.2%)	24 . 生活安定 (20.6%)